

## 第5集発刊に当って

研究所長 仲 三 郎

本生活科学研究所は、昭和48年に、それまでの被服科学研究所と生活科学研究所を合併整理して、家政科学一般に関する研究ならびにその実用化および向上に寄与することを目的として、設立されたのでありますが、その研究の中心となる研究所員と研修生による研究成果は、生活科学研究所研究報告として、昭和53年3月第1集を発表して以来、毎年刊行を重ね、本年は第5集を出すことになりました。

その間、研修生の報告を6報、研究所員によるもの3報、さらに3人の研究所員による総合研究報告を4報発表することができました。

その中でもとくに総合研究は、「人間的観点からの家政学・家庭科の分析」を主題とし、明治から現代に至るわが国の教育の歴史の中で、家庭科教育がいかに取り扱われてきたかを、文献によって調査分析し、それをもとに、人間が人間らしく生きるための家庭科教育のあり方、したがってまたこれからの家政学はいかにあるべきかを探ろうとする極めて野心的な試みであります。

今回までに、国定期の家事教科書、戦前の初等教育における裁縫教科書、初等、中等および高等教育における家庭科教育をとり上げ、それらの教科書と家庭科教育が、その時代の社会情勢や政治といかに密接に係り合ってきたかを調査研究してまいりました。そして第6集において、これらの締めくくりとして、家政学の最も重要な中心部分である「人間が人間らしく生きる」ための家政学のあり方について検討を加え、この「人間的観点からの家政学・家庭科の分析」を主題とする総合研究を一応終る所存であります。なおこれに続く総合あるいは協同研究については、研究所員らによって目下検討中ではありますが、諸先生方の御意見をも参考にして決めたいと考えておりますのでその際はよろしく御協力御支援のほどお願いいたします。